

総会議案書



日時 2025 年 5 月 12 日

富田林の自然を守る市民運動協議会

総会次第

議事

第 1 号議案 2024 年度 事業報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 1

(生物多様性保全のための基礎調査 R6年度『自然環境保全活用調査その23』報告書より抜粋を含む)

第 2 号議案 2024 年度 会計決算報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 14

第 3 号議案 2024 年度 会計監査報告 ・ ・ ・ ・ ・ P. 15

第 4 号議案 2025 年度 事業計画 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 16

第 5 号議案 2025 年度 予算 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 18

第 6 号議案 2025 年度 役員 (案) ・ ・ ・ ・ ・ P. 19

第 1 号議案 2024 年度 事業報告

I. 2024 年度の活動の概要

富田林の自然を守る市民運動協議会（以下協議会と略す）の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動の 3 つである。これらを統一的にとらえて実施している。

具体的には①に関しては「里山ホリデー」（雑木林の下伐り、里山への侵入竹の除伐、人工林の間伐、放棄田の草刈りなど）、②に関しては「米作り体験（田植え、稲刈り、稲こぎ）」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんどともちつき」、「里山生活入門」、「自然観察会（植物、昆虫、野鳥、水生生物、観察会入門）」、③に関しては「自然観察会（②と共通）」、「自然環境活用調査への協力」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである（また、環境省の事業であるモニタリング 1000 里地調査の植物とチョウについて富田林の自然を守る会が実施している）。上記の各種行事に関しては当会の構成団体の一つである富田林の自然を守る会（以下守る会と略す）が行う活動の中で協議会主催行事として実施している。

また、森林環境譲与税の有効な活用策について協議し、里山に拡大した竹の除伐、竹林整備を事業化することにし、モデル的な実施を想定して奥の谷の竹林を調査した。

一方、守る会は 2019 年度から設立 30 周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側 10m の里山的管理を実施しており、協議会の取り組みもこれに準じて実施した。

II. 具体的な活動

1. 自然環境保全活動（生態系保全活動）

(1) 里山保全活動

守る会は奥の谷（富田林市彼方）において、里山保全活動を実施している。主なテーマは①雑木林の林床管理、②人工林（スギ・ヒノキ林）の間伐・整備、③雑木林や人工林に侵入した竹の除伐及び竹林管理、④水田（その多くは放棄田となっている）の畦やため池の



里山保全作業

表1 里山保全活動（協議会主催）									
No.	開催日				行事名	作業内容	参加人数		
	年	月	日	曜			大人	子ども	計
1	2024	4	20	土	里山ホリデー	果樹の丘周辺整理	8	0	8
2		5	18	土	里山ホリデー	里山散策、間伐、工作	10	0	10
3		6	15	土	里山ホリデー	田畔補修、農道土砂整理(NICEと合同)	8	1	9
4		7	13	土	里山ホリデー	「さとり」林整備	10	2	12
5		11	10	土	里山ホリデー	中止（参加予約者なし）	—	—	—
6		12	15	日	里山保全と交流会	交流会(NICEと合同)	20	0	20
7	2025	1	13	土	里山ホリデー	どんど焼き準備(NICEと合同)	11	0	11
8		2	8	土	里山ホリデー	シイタケ植菌	8	4	12
9		3	8	土	里山ホリデー	工作（竹馬、その他）	3	4	7
合計							78	11	89

表2 里山保全作業（自然を守る会独自の活動）								
No.	年	月	日	曜	作業内容	参加人数		
						大人	子ども	計
1	2024	4	5	金	さとり林下ごり、畑の手入れ	19	0	19
2		5	3	金	さとり林下ごり、畑の手入れ	22	0	22
3		6	7	金	さとり林下ごり、畑の手入れ	17	0	17
4		7	5	金	さとり林下ごり、畑の手入れ	19	0	19
5		8	2	金	さとり林下ごり、畑手入れ	12	0	12
6		9	6	金	さとり林下ごり、畑手入れ	11	0	11
7		10	6	金	雨天中止	—	—	—
8		11	1	金	さとり林下ごり、畑手入れ	15	0	15
9		12	6	金	さとり林下ごり、畑手入れ	16	0	16
10	2025	1	10	金	さとり林下ごり、畑手入れ	16	1	17
11		2	7	金	雨天中止	—	—	—
12		3	7	金	さとり林下ごり、畑手入れ	14	0	14
合計						161	1	162

土手などの草刈り、⑤水生生物の保護（水の生き物池の管理）である。協議会は「里山ホリデー」及び「里山保全と交流会」と称する行事を主催し、里山保全の活

表3 外部団体との共催・受け入れなど

No.	行 事	開催時期	主催団体	作業内容	参加者数			
					団体参加者		守る会参加者	計
					大人	子ども		
1	週末ワークキャンプ(1泊:9回)	8. 9. 2月を除く毎月	NICE富田林チーム	里山見学、コナラ伐採、人工林間伐、薪割り、雑木林の下ごり、木材搬出、井戸掘りなど	63	10	40	113
2	グループワークキャンプ(香港:5泊)	3月	NICE	里山講座、雑木林下伐り、竹林整備、人工林間伐など	39	0	25	64
3	国際ワークキャンプ(8泊)	9月	NICE	里山講座、雑木林下伐り、竹林整備、人工林間伐など	90	8	46	144
4	里山関連の講座	6月～2月	大阪自然環境保全協会シニア自然カレッジなど6団体	座学、里山見学、雑木林・人工林・竹林管理実習、竹炭焼など	171	3	45	219
5	溜池、用水路などの草刈り整備	5月	守る会、NICE、水利組合などの協働	溜池土手、水路周辺の草刈り	16	0	10	26
6	調査	4, 9, 11月	大阪公立大学、生物多様性センター、シニア自然カレッジ	フクロウ調査、昆虫調査、シカ等調査	25	0	6	31
7	各種団体(18団体:32回)	4～3月	幼稚園、自然環境保全協会、縄文楽会など	里山体験、山地・放棄田などの草刈りなど	180	91	61	332
合計					584	112	233	929

動に参加している。2023年度はNICEの週末ワークキャンプ(守る会とNICEの共同事業)の初日(土)にNICEの参加者と一緒にこれらの行事を実施した。協議会の行事ではその時に必要と思われる作業を実施した。その実施状況を表1に示す。

守る会では2022年度より3年計画で林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策事業(さともり事業)」の交付金を受け、5.8haの雑木林の里山保全事業を開始しており、協議会の事業以外にも守る会独自の「里山保全作業(大阪シニア自然カレッジ里山部会から多くの人が参加している)」や会員による「自主活動」などにより上記の5つの活動を展開している。それらの活動状況を表2、3および表4に示す。

2024年度は『さともり』事業の最終年でありこの間の取り組みで5.8haの雑木林が見違えるように整備された。この事業を通じてこの雑木林の林床にチゴユリおよびシヤガが新たに発見された。また、林縁部にカキドオシが新たに発見され、ハウチャクソウの分布域が大きく広がった。

2024年度の参加延べ人数は協議会主催の「里山ホリデー」では89人、守る会独自の「里山保全作業」では162人、外部団体との共催・受け入れでは929人、守る会の自主活動では493人で、里山保全活動に関わった総延べ人数は1,673人であった。これは2022年度の1,413人に比べて増加している。

表4 自主活動(里山保全に関わるもののみ)

年	開催日		作業内容	参加人数
	月	回数		
2024	4	10	水田手入れ、工作、側溝清掃など	23
	5	13	田植え準備(耕耘)、生きもの池周辺草刈りなど	28
	6	18	水田見回り・整備、田植え準備、散策路草刈り、工作など	46
	7	14	水田草取り、農道整備、散策路草刈りテント修理など	32
	8	16	水田見回り、水路脇草刈り、器具整備など	43
	9	14	常備薬点検、ワークキャンプ準備、水田畦草刈り、排水路修理など	34
	10	15	稲刈り準備、水田手入れ、水路整備、農道草刈りなど	36
	11	16	散策路草刈り、小屋回り清掃、木材運搬など	71
	12	20	水田手入れ、パソコン整備、果樹の丘草刈りトイレ修理など	73
	1	9	水田手入れ、周辺清掃、工作など	32
	2	15	用具類点検、さともり林管理、工作など	41
	3	11	散策路整備、みかん小屋廻り整備、工作など	34
合計		171		493

2. 文化的活動(自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動)

(1) 米作り体験

米作り体験の実施状況を表5に示す。奥の谷の水田(約400m²)を借地し、米作りを実施した(約230m²にうるち米、約170m²にもち米を栽培)。協議会の行事としては①田植え、②稲刈り、③稲こぎ(脱穀)を行った。玄米でうるち米(ヒノヒカリ)約40kg、もち米(コガネモチ)約18Kgを収穫した。三行事を通じた延べ参加人数はスタッフ(富田林の自然を守る会の役員)を含め96人であった(稲こぎは雨天で延期

表5 米づくり

No.	行事名	実施日	参加人数			備考
			大人	子ども	計	
1	田植え	6月8日	26	23	49	
2	稲刈り	10月12日	21	17	38	
3	稲こぎ	11月4日	9	0	9	2日が雨のため延期して実施
合計			56	40	96	

したため参加者が少なかった)。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。

(2) 観察会

観察会は、植物観察会、水の生き物観察会、昆虫観察会および野鳥観察会を実施した。それらの実施状況を表6に示す。

① 植物観察会

奥の谷を中心にその時期に花が咲いているものあるいは実がついているものを観察し記録した。ただし、6月22日は錦織公園で実施した。また、10月9日はドングリを中心に観察した。シリブカガシやツブラジイがみられる春日神社周辺を中心に観察した。6回の観察会をで、23人が参加した。

② 水の生き物観察会

6月30日に「水の生き物池」で実施する予定であったが、雨のため中止となった。

③ 昆虫観察会

午後4時30分に奥の谷に集合し、ネットでの採集、バナナトラップ、ピットホールおよび夜のライトトラップによって観察・採集した。6人が参加し、26種の昆虫を観察した（同定したもののみ）。



ヒメコガネ

④ 野鳥観察会

滝谷不動駅に集合し、石川から春日神社を通過して奥の谷までのコースで観察した。

上村賢氏（日本野鳥の会大阪市部）を講師に実施し14人が参加した。

野鳥観察会以外の観察会は講師を含め会のスタッフで運営した。これらの観察会の観察記録は調査としても活用する。調査結果については別途整理する予定である。

表6 観察会								
No.	行事名	実施日	花または実がみ られた植物(草 本)の種数	参加人数				備考
				一般参加者		スタッフ	計	
				大人	子ども			
1	植物観察会	4月6日(土)		0	0	2	2	奥の谷
2		5月5日(日)		3	1	4	8	奥の谷
3		6月22日(土)	草本28, 木本26	1	0	2	3	錦織公園
4		7月7日(日)	—	—	—	—	—	中止(参加者なし)
5		8月10日(土)	—	—	—	—	—	中止(参加者なし)
6		9月21日(日)	草本44, 木本5	0	0	2	2	奥の谷
7		10月19日(土)		2	4	2	8	春日神社～奥の谷(ドングリと草花)
8		11月23日(日)	—	—	—	—	—	中止(参加者なし)
9		3月22日(土)		(1)	(2)	(3)	(6)	奥の谷(春を見つけよう)
合 計				6	5	12	23	
No.	行事名	実施日	それぞれ生き物 がみられた種数	参加人数				備考
				一般参加者		スタッフ	計	
				大人	子ども			
10	水の生き物観察会	6月30日(日)	—	—	—	—	—	雨天中止
11	昆虫観察会	7月20日(土)	26	3	6	7	16	奥の谷
12	野鳥観察会	2月15日(土)		5	3	6	14	滝谷不動駅→石川→春日神社→奥の谷
総合計(植物観察会を含む)				14	14	25	53	

(3) その他の文化的行事

その他の文化的行事の実施状況を表7に示す。『春の野草を食べる会』、『里山クラフト』、『どんどもちつき』、『里山生活入門』、『春を見つけよう』を実施した。『春を見つけよう』は予定していた2月22日にはほとんど春の植物がみられなかったので3月22日の『植物観察会』に合流して実施した。『春の野草を食べる会』と『どんどもちつき』は人気が高く、スタッフを含めた参加者はそれぞれ38人および55人であった。5行事の総参加人数は120人であった。

表7 その他の文化的行事

No.			行事名		実施日		参加人数			備考
役員 世話人		一般		計						
						大人	子ども			
1	春の野草を食べる会		4月29日(土)		9	16	13	38		
2	里山クラフト		11月24日(日)		5	3	5	13	つる細工	
3	どんどもちつき		1月12日(日)		11	31	13	55		
4	里山生活入門		1月25日(土)		2	3	3	8	里山生活を楽しむ	
5	春を見つけよう		3月22日(土)		3	1	2	6	2月の予定を3月に 変更して実施	
合 計					30	54	36	120		

3. 調査研究・政策提言活動など

(1) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。令和6年度(自然環境保全活用調査その23)の調査報告書の抜粋を本経過報告の末尾に掲載する。

(2) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

「富田林市緑の基本計画」は2019年3月に新しく策定され、6年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっている。2020に当協議会で進行管理を行うこととなったが、その後も具体的には進んでいない。あらためてPDCAサイクルによる進行管理の方策について議論することになった。

(3) 森林環境譲与税の使途について

2019年度から森林環境譲与税が国から地方自治体に分配されている(2024年度から住民税納税者1人当たり年間1,000円が課税されている)。

① 森林環境の調査

市は2023年に市域の森林の調査を大阪府生物多様性センターに依頼した。この調査結果に基づき市域の森林に広がる竹林の除伐、整備が必要であると考えその方策を検討した。そして2025年度はモデル的に奥の谷で実施してはどうかということになり、2025年1月に奥の谷の竹林調査を実施した。この調査に基づき2025年度に計画の具体化、2026年度は奥の谷でモデル的に実施することになった。

② 里山講座

市がこの譲与税を活用して「富田林の自然を守る会」に委託して第2回目の「里山講座」を実施した。講座の内容は『富田林・里山ボランティア養成講座』とした。①里山保全と生物多様性(11月9日、午前は講義、午後は里山見学)受講生4名、②雑木林の管理作業<実習>(12月22日)受講生4名、市から2名、スタッフ4名、③竹の除伐・竹林整備<実習>(1月26日)受講生3名、市から2名、スタッフ13名、④人工林(スギ・ヒノキ林)の間伐<実習>(2月23日)受講生6名、市から2名、スタッフ5名であった。

(4) 生物多様性保全について

① 生物多様性地域戦略の策定

生物多様性地域戦略の策定に関する検討は2024年度も具体的には進んでいない。

③ 生物多様性の認識を広める活動

上記の森林環境譲与税を活用した「里山講座」などは生物多様性保全の重要性を市民に広めることに繋がっていると思われる。

③ 岸本記念自然緑地公園の管理について

2023年4月4日に「岸本記念自然緑地公園」としてオープンし、市による管理となっている。当公園は市街地にあつてヒメボタルやカブトムシが生息し、いくつかの貴重な植物の生育がみられることから生物多様性豊かな緑地として管理することが求められる。

数年前からヒメボタル発生時には『富田林の自然を守る会』の会員によってその発生数や見物者の数などが調査されている。それによると2024年の発生のピークは5月24日で550頭であった（2023年は5月21日で580頭、2022年は5月27日で570頭、2021年は5月23日で350頭）。今後も協議会が管理方法を提言するなど協力していくこととしている。

(5) 冊子「富田林の自然」No. 19の発行

2021年3月にNo. 18を発行して以来、発行できていない。できるだけ早く発行できるよう準備を進めている（2025年には19号を発行する予定である）。

(6) 守る会などによる調査

① モニタリング 1000 里地調査（以下モニ 1000 と略す）

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会（NACS-J）に委託して実施している調査で、守る会は 2009 年から奥の谷において植物およびチョウの調査を行なっている。2024 年は 16 年目となっている。

④ フクロウの調査への協力

守る会は大坂公立大学のフクロウ調査に協力している。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し産卵したが、2024 年度も羽化に至らなかった。また、他の巣箱には 2021 年度に続き 2022 年度、2023 年度、2024 年度もムササビが入っているのが確認された。

Ⅲ. 協議会参加団体の活動

1. 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的” 生き方・暮らし方 の提案」をコンセプトとして、里山の保安全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約 120 名。河南町の里山や富田林市の嶽山ふもとの果樹園などで、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林の保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

●里山ボランティアの日（里山体験） ●里山日和（里山体験）

●里山っ子クラブ（子供対象） ●もりあん（技術講習）

●弘川千年の森（協働事業） ●ツリーイング（木登り）

●里山と暮らす応援講座（里山実習）

●源流米パラダイス（棚田の保全活動）

●スモールファーム自給塾（農業研修）

<生産販売事業>

●里山事業部（森林作業請負、炭・薪等の生産販売）



里山と暮らす応援講座

●里山倶楽部自然農場（無農薬米、野菜等の生産販売）

<まちづくり・調査研究活動>

●里山バイオマスエネルギー事業部（薪炭林のエネルギー化研究）

●里山環境教育オフィス（企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業）

連絡先：寺川裕子、〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

2. NPO 法人学びと育ち南河内ネットワーク

NPO 法人「学びと育ち南河内ネットワーク(略称「まなそだネット」)」は、富田林を中心とした子ども達の学びと育ちを支援するために、2018 年に府立富田林高校の同窓会が中心となって設立されました。

そして、「科学教室力塾」の「探究教室」では「まなそだネット」の経済的な支援を受け、中高生が研究活動を行っています。自然に恵まれた南河内地域を主なフィールドとして活動し、研究を深化させ、科学コンテストや学会などで成果を発表しています。活動のコンセプトは「探究」と「貢献」であり、テーマは地域への貢献を意識しています。

2024 年度は、「富田林の自然を守る会」のご協力をいただきながら、岸本自然緑地公園のヒメボタルの生態について調査を行い、その成果は 11 月 17 日の日本動物学会近畿支部主催「高校生研究発表会」などで発表した。また、岸本自然緑地公園のヒメボタルとその貴重な生息環境を保全しようと、ポスターやチラシを作成して啓発活動も行った。

連絡先：小川力也、〒584-0032 富田林市常盤町 15-10 石田ビル 3 階, TEL0721-55-4681



高校生が制作した岸本自然緑地公園のヒメボタル

3. 嶽の会

2025 年 1 月 25 日里山生活入門・協議会行事を担当、一般参加大人 3 人、子ども 3 人、スタッフ 2 人の計 8 人の参加でした。

雑木林を散策しながら枯れ木、枯れ葉を袋に集め昼食時の燃料とします。今日の昼食メニューは、七草雑煮なので芹やノビルも摘みました。集めた枯れ木で餅を焼き、各自作った竹食器で食べる七草雑煮は格別でした。

連絡先：上角敦彦 富田林市若松町 4-6-29 TEL 0721 24 8757



箸作り

4. 富田林の自然を守る会

協議会参加団体のうち守る会の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。上記に記載できなかった活動について報告する。炭焼班:里山に侵入したモウソウチクなどを伐採して竹炭を製造。ミツバチ班:自然界に生育するニホンミツバチを飼育する。カレー班:カレーの材料を全て栽培する(大阪自然環境保全協会の「カレーライスを本当に手作りするプロジェクト」を実施している)。施設整備:守る会の拠点小屋(みかん小屋)の整備。

また、2022 年度に立ち上げた守る会の今後に向けた「会のあり方検討会」を 2024 年度も毎月開催し今後の会のあり方を検討した。6 月に開かれた総会において代表が退任し、新たに会長を選出し、新しい体制での活動がスタートした。

NICE の国際ワークキャンプの受け入れは 2020 年度～2023 年度の間、新型コロナウイルス対策により中止していたが、2024 年度は 9 月に 5 年ぶりに再会した。また、2025 年 3 月には香港のグループワークキャンプを受け入れた。

10 月 20 日『ふれあいの森林（もり）づくり表彰』（国土緑化推進機構会長賞）を受賞した。

連絡先：上角敦彦 富田林市若松町 4-6-29 TEL 0721 24 8757



IV. 2024 年度の活動などで特徴的だったこと

1. 富田林市が森林環境譲与税を活用して守る会に委託して前年度に引き続き『里山講座』を実施した。
2. 森林環境譲与税の活用として、里山に侵入した竹の除伐、竹林管理を実施することとして、モデル的に奥の谷での実施を検討し調査を実施した。
3. 岸本記念自然緑地公園に 2024 年もヒメボタルが多数発生した。
4. 守る会が NICE と共催して、5 年ぶりに国際ワークキャンプを再開した。また、香港グループワークキャンプを受け入れた。
5. 守る会が 2022 年度から 3 年計画で実施した林野庁の『森林・山村多面的機能発揮対策交付金(さともり)』事業が終了し、奥の谷に良好な里山が再生された（2025 年度から新たに 3 年計画で隣接の雑木林に取り組む予定）。
6. 守る会が『ふれあいの森林（もり）づくり表彰』（国土緑化推進機構会長賞）を受賞した。

V. 会議

1. 役員会

2024 年 4 月 19 日（金）、6 月 21 日（金）、7 月 19 日（金）、8 月 16 日（金）、9 月 20 日（金）、10 月 18 日 4（金）、11 月 22 日（金）、12 月 20 日（金）、2025 年 1 月 17 日（金）、2 月 14 日（金）、3 月 21 日（金）。

2. 会計監査

2025 年 3 月 31 日（月）。

3. 総会

2025 年 5 月 12 日（月）。

生物多様性保全のための基礎調査

～R6 年度「自然環境保全活用調査その 23」報告書より抜粋～

1. 生物ホットスポットの現況調査

令和 3 年度の調査において富田林市の生物ホットスポットとして抽出した 8 ヶ所のうち、緑の基本計画の「保全配慮地区」でもある「奥の谷」について、昨年に引き続いて調査を実施した。

＜拠点小屋周辺＞

- ・拠点地には作業小屋や作業道具の収納場所、トイレなどが整備され、活動を支えている。
- ・小高い果樹の丘からは、隣接尾根の雑木林管理地や反対側の尾根のようすを確認できる。
- ・果樹の丘のふもとに炭焼き小屋が設置され、冬季には伐採竹の炭焼きが随時実施される。



拠点地の作業小屋前広場



果樹の丘



果樹の丘から見た反対側の尾根



果樹の丘のふもとに設置された炭焼き小屋

＜雑木林管理地＞

- ・3 年前から間伐や下草刈り等を実施している雑木林は、林床がきれいに整備された明るい林になっており、今後は草本類などの芽生えにより生物多様性が高まると考えられる。



林床がきれいに整備された雑木林

＜竹林管理地＞

- ・密生して荒れていたモウソウチク林を、斜面下部から間伐作業を実施している。
- ・ひきつづき上部も間伐を行い、適切な密度の竹林として管理していく方針となっている。
- ・伐採した竹は、チップパーで破砕するほか、竹炭としても利用される。
- ・今後は、森林環境譲与税を活用した竹林整備などの見本林としての活用が期待できる。



間伐整備中の竹林、上部斜面も今後に伐採を行う予定。



伐採した竹は現地に集積した後、チップで破砕して処理



間伐整備前の竹林（斜面上部）



間伐整備前の竹林（谷奥につづく斜面）

<みはらしの丘への散策路沿い>

- ・散策路の両側の道沿いの竹林を、幅 10m で伐採して明るい空間を創出している。
- ・10m の林床には様々な草本や灌木、シダ類が生育しており、背後の未整備の竹林と比較すると、生物多様性の高い環境が形成されている。
- ・面的な整備が困難な竹林の環境改善を行う手法としての見本事例といえる。
- ・森林環境譲与税を活用した整備においても、導入しやすい方法として提案できる。



背後の竹林と比べると、多くの植物が生育。

道沿いのため継続的な管理もしやすく、散策利用する際にも安全で歩きやすくなる。



イノシシ被害のある丘上の果樹植栽



イノシシが体をこすった泥のあと

（２）補足現地調査（石川河川公園 タコノアシ自生地）

令和３年度に文献調査で富田林市の生物ホットスポットとして抽出された石川において、環境省および大阪府のレッドデータブックで「準絶滅危惧種」に指定されている「タコノアシ」が１６年ぶりに再発見された。その後、ほかの石川河川敷（富田林市域）でも生育が確認されたため、公園の観察会などに同行して現地を調査した。

●現地航空写真

（GoogIMap より）



●タコノアシの特徴および再発見の経緯

R1（2019）年12月の調査で、もとワンド内の水路沿いにタコノアシの群落が大阪府立大学藤原教授により発見された。タコノアシは、環境省および大阪府のレッドデータブックに「準絶滅危惧種」として掲載されている希少種で、旧レッドデータ（2000）のガイドブックの分布地域の南部（南河内・泉北・泉南）には記載がない。石川河川公園では、H15（2003）年の植生調査の際にA地区の造成水路で2ヶ所確認されているが、それ以外の記録はない。大阪市自然史博物館に採取した個体を持ち込んでヒアリングしたところ、大阪南部の標本としては1949年の岸和田市と2003年の石川のみで、近年までの多くの標本は淀川流域のものであった。

●タコノアシ生育地の現況

- ・石川河川公園 自然ゾーン B地区 二つ池（2023年5月初認）



- ・石川河川公園 西行うたのみち 低水護岸下



- ・石川河川公園 自然ゾーン B地区 人工ワンド内の湿地



2. 緑の基本計画、森林環境譲与税について

●優先的に森林整備を検討すべき候補地

R5 年度「富田林森林整備調査業務」では、市域の森林における森林整備の必要性について、以下のような評価項目（収量比較：間伐の必要性、林相区分：竹林の分布、地形：傾斜度、山地災害危険地区、地質：花崗岩、農地：獣害危険度）で調査が実施され、これらの評価項目を得点化して、優先的に森林整備を検討すべき候補地を 20 ヶ所抽出し、整備の優先順位がつけられている。

優先度の高いエリアのほとんどは、「竹林拡大対策」を主たる目的とした森林整備が提案されており、竹林について次のような問題点が指摘されている。

- ・災害発生面 竹林の拡大速度は極めて速く、既存樹林地への侵入は、既存樹木を日照不足から枯死させる危険性が高い。また、竹の根茎は地下 0.5m という浅いところを伸長し、斜面地の表層崩壊の抑制力は脆弱になる。
- ・獣害発生面 薄暗く密生した竹林は、シカやイノシシが山から出てくる「前線基地」となりうる。また「タケノコ」はイノシシに対して食料提供することになる。

●竹林拡大対策の課題および提案

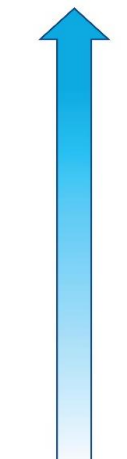
上記で提案された優先度の高い竹林拡大対策エリアのほとんどは、土砂災害警戒区域に隣接する急斜面で、斜面下に家屋が点在する箇所も多い。そのため大面積の竹林伐採については、慎重な判断が求められる。また竹林は一度の伐採では根絶されず、その後長期にわたって毎年の伐採が必要となる（およそ 5 年の伐採で駆逐できると言われる）。さらに民有林である竹林は、整備後どのような姿に改善されるのかを所有者にわかりやすく示さないと、理解が得られない可能性がある。

そこで、森林環境譲与税を活用して、今回の現地調査で確認した、奥の谷での竹林管理（間伐による適正密度の竹林）をさらに進め、先行事例となるモデル林をつくることを提案する。また、一度に大面積が施行できない場合のモデルとして、道沿い 10m 幅の伐採も参考となる好事例となる。森林環境譲与税の活用にあたっては、これらのモデル林の先行実施が有効と考えられる。

「候補地」1～18 の森林整備の優先順位(案)

エリア名	加重平均	得点順位	総面積 (ha)	タケ本数	人工林本数	人工林平均直径
14 (竹林拡大対策14)	12.278	1	1.646	1877	0	0
15 (竹林拡大対策15)	11.928	2	1.016	662	49	28.2
9 (竹林拡大対策 9)	11.184	3	1.774	1437	57	23.8
18 (竹林拡大対策18)	11.049	4	1.593	834	66	32.2
20 (竹林拡大対策20)	10.797	5	2.001	1313	282	35.6
19 (竹林拡大対策19)	10.305	6	1.905	355	1027	32.0
13 (竹林拡大対策13)	10.003	7	0.342	289	0	0
10 (竹林拡大対策10)	9.251	8	0.558	335	25	32.0
16 (竹林拡大対策16)	9.243	9	0.610	426	13	28.9
12 (竹林拡大対策12)	8.702	10	1.126	363	426	30.4
11 (竹林拡大対策11)	8.679	11	5.039	2081	313	32.7
6 (竹林拡大対策 6)	8.604	12	1.767	767	110	32.7
2 (減災対策間伐 2)	8.181	13	0.720	0	703	32.1
7 (竹林拡大対策 7)	8.115	14	1.399	731	223	31.3
8 (竹林拡大対策 8)	8.085	15	2.160	564	0	0
5 (竹林拡大対策 5)	7.998	16	1.127	573	0	0
17 (竹林拡大対策17)	7.845	17	1.902	739	189	33.3
3 (減災対策間伐 3)	7.315	18	0.970	0	709	34.0
1 (減災対策間伐 1)	5.912	19	2.950	0	1702	32.6
4 (減災対策間伐 4)	5.767	20	1.354	0	802	34.1

優先度 高



優先度 低

第2号議案 2024年度決算報告					
歳 入					
項 目	予 算	決算	増減	備考	
補助金	243,000	243,000	0		
行事参加費	30,000	28,800	-1,200	各種行事参加費、延 9 6 人	
寄付金	400,000	449,587	49,587	自然を守る会から449,587円	
雑収入	0	2	2	預金利息	
繰越金	0	0	0		
総 計	673,000	721,389	48,389		
歳出					
項 目	予 算	決算	増減	備考	
報償費	20,000	20,000	0	里山クラフト、野鳥観察、講師御礼	
消耗品費	100,000	114,139	14,139	草刈り替刃、長靴、乾電池、トイレトペーパーなど	
郵送費	10,000	0	-10,000		
燃料費	60,000	68,065	8,065	作業機械、発電機、軽トラック	
賄い材料費	15,000	18,779	3,779	行事日の昼食材料代	
備品購入費	50,000	36,929	-13,071	ドキュメントスキャナー	
修理費	150,000	187,850	37,850	薪割り機、発電機、自走式草刈り機、チップパー修理	
施設管理費	23,000	3,017	-19,983	事務所電気代	
施設整備費	10,000	61,905	51,905	炭焼き窯修理セメント、製材代	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	0	水田使用料	
保険料	100,000	62,250	-37,750	スポーツ安全保険(仮払い機.チェーンソウ)	
国際ワークキャン	100,000	41,905	-58,095	ワークキャンプ運営費(9/5～9/12)	
雑費	5,000	76,550	71,550	軽トラック車検費用	
総 計	673,000	721,389	48,389		
市助成対象分 243,000 は歳出計 721,389から賄い材料費、備品購入費、雑費を除いた 589,131(円)です					
721,389－18,779－36,929－76550＝589,131(円)					

第3号議案 監 査 報 告 書

令和 7年 3月31日

富田林の自然を守る市民運動協議会
会 長 田 淵 武 夫 様

富田林の自然を守る市民運動協議会
会計監査 小 川 力 也 

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、年度会計に関する監査を
下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

【 監査結果 】

事 項	意 見	指 摘 事 項	備 考
事 業 等 の 実 施 状 況	問題なし	特になし	
会 計 事 務 の 状 況	問題なし	特になし	
そ の 他	特になし	特になし	
総 括		適 正 ・ 概ね適正 ・ 不適正	

第4号議案 2025年度事業計画（案）

1 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

『里山ホリデー』と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下伐り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理（間伐、枝打ち、皮むきなど）、休耕田・放棄田、溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路（作業路）造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00～15:00頃とする。

日程:2024年4月19日(土)、6月14日(土)、7月12日(土)、11月8日(土)、12月14日(日)、2025年1月10日(土)、2月7日(土)、3月7日(土)。なお、12月15日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、富田林の自然を守る会は30周年記念事業として協議会が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を2019年度より開始している。雑木林の下伐り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお、各事業を申込み制とし、基本的には定員を20名とする。ただし、事業によっては状況に応じて事業ごとに定員を増減することもありうるものとする。

2 文化的活動

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。日程は次の通りとする。

- ① 田植え:5月31日(土)10:00～15:00頃(予備日6月1日)。
- ② 稲刈り:10月4日(土)10:00～15:00頃(予備日5日)。
- ③ 稲こぎ:11月1日(土)10:00～15:00頃(予備日11月2日)。

(2) 春の野草を食べる会

日時:4月13日(日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時:11月24日(月;振替休日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(4) どんどこもちつき

日時:1月11日(日)10:00～15:00頃。

場所:奥の谷。

(5) 里山生活入門 ?

日時:1月24日(土)10:00～13:00頃。

場所:奥の谷

(6) 観察会入門（春を見つけよう） ?

早春の動植物を見つける。

日時:3月14日(土)。

場所:奥の谷。

3 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察会

① 植物観察会

下記の日程でおこなう。適宜地域を変更して実施する。また、内容についても検討する。

日程:4月12日(土)、6月21日(土)、7月6日(日)、9月13日(土)、10月18日(土;どんぐり観察)
11月29日(土)、3月14日(土)。

② 水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月28日(土)10:00～13:00頃。

場所:奥の谷。

③昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルート観察などを行う。

日時:7月21日(土)16:00~21:00頃。

場所:奥の谷。

③ 野鳥観察会

日時:2月14(土)9:00~13:00頃。

場所:近鉄滝谷不動駅~石川~春日神社~奥の谷。

(2) 自然環境保全活用調査 その22

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 19 の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「自然環境保全活用調査」において2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの調査を踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。

(5) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

計画で実施することになっているPDCAサイクルでの進行管理をどのように実施するかの検討を行う。

また、森林環境譲与税の活用を含め具体的に計画が実行できるよう関係機関に働きかける。

(6) 森林環境譲与税の使途について

2022年度、2023年度は緑の基本計画における3カ所の保全配慮地区を調査した。また市が大阪府に依頼した調査の結果踏まえて、2025年度はモデル的に奥の谷の竹林について竹の除伐、竹林管理を実施する。また、2026年度以降の具体的な計画を策定する。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

2025年度は守る会がNICEと共催で「国際ワークキャンプ」実施する予定であるので、実施される場合には財政的なことを含めて支援・援助を行う。

(2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体の活動に対し必要に応じて支援・援助を行う。

5. 会議

(1) 役員会：原則として毎月第3金曜日の10時~12時に市役所(すばるホール)において開催する。

(2) 総会：2026年5月に市役所(すばるホール)で開催する。

第5号議案

2025年度 予算案

1.一般会計

収入の部

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減 (予算- 前年度予算)	備考
補助金	243,000	243,000	243,000	0	
行事参加費	30,000	30,000	28,800	0	
寄付金	450,000	400,000	449,587	50,000	守る会より
雑収入	0	0	2	0	
繰越金	0	0	0	0	
合計	723,000	673,000	721,389	50,000	

支出の部

項目	予算額	前年度 予算	前年度 実績	増減 (予算- 前年度予算)	備考
報償費	20,000	20,000	20,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	114,139	0	
郵送費	10,000	10,000	0	0	
燃料費	60,000	60,000	68,065	0	
賄い材料費	20,000	15,000	18,779	5,000	
備品購入費	50,000	50,000	36,929	0	
修理費	150,000	150,000	187,850	0	
施設管理費	5,000	23,000	3,017	-18,000	
施設整備費	50,000	10,000	61,905	40,000	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	100,000	100,000	62,250	0	
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000	41,905	0	
予備費	28,000	5,000	76,550	23,000	
合 計	723,000	673,000	721,389	50,000	

第 6 号議案 2025 年度役員（案）

役員名	氏 名	団 体 名
会 長	田 淵 武 夫	（富田林の自然を守る会）
副会長	上角 敦彦	嶽の会
会 計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	小川 力也	NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク
理 事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部
理 事	楠本 孝一	富田林の自然を守る会

団 体 名	郵便番号	連 絡 先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	富田林市若松町 1-3-18-304	0721-25-8896
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目 20 番 6 号	0721-25-3128
嶽の会	584-0024	若松町四丁目 6 番 29 号	0721-24-8757
NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク	584-0032	常盤町 15-10 石田ビル 3F	0721-55-4682

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 090-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局 まちづくり部	森木 和幸 部長
	北田 寛人 次長
道路公園課	井上 保 課長
	秦中 俊明 参事
	武田 一平 主幹
みどり公園係	西塚 誠 係長
	山口 はるか 副主任
	上田 晴久

〒584-8511 富田林市常盤町 1 番 1 号 富田林市役所電話

0721-25-1000 内線 424 FAX0721-24-0269

E メール douro@city.tondabayashi.lg.jp